

〈S〉 **経営情報モデル** (春学期、秋学期 2単位) 阿辻 茂夫
 Management Information Model

■授業概要

情報社会のマネジメントについて、学説や理論を紹介しながら、その適用可能性を学習する。主に、アメリカ経営学の学説の系譜を中心に「理論」を紹介し、現実面での「経験や実践」と対比させながら、組織情報や知識の生成に介在する知能としてのマネジメントの役割について検討する。

講義では、組織が環境から何を学習し、その「知識や情報」を如何にマネジメントに取り込んできたのか？現代の ICT 環境下における経営情報モデルについて、アメリカ経営学の学説・理論を基軸に、サステナブル時代に求められる近未来組織の方向性を探る。

■到達目標

マネジメントの実態とその学説史を俯瞰しながら、現代的課題への理論的適用の可能性を考えさせる。経営の諸モデルとして、F. W. テイラーをはじめ伝統理論、G. E. メイヨーらの人間関係論、C. I. バーナード、H. A. サイモンの近代組織論、P. F. ドラッカーの知識社会論を紹介しながら、これらを情報面からアプローチし、ICT による情報社会に適用可能な近未来のマネジメントのあり方を考えさせる。

特に、(1)「生命ビジネス」にみる近未来のマネジメントの課題、(2)「環境ホルモン」にみる現代経営と環境マネジメント、(3)現代企業の意思決定と企業倫理、(4)失敗意思決定による社会的責任、(5)組織決定と政策決定のガバナンス、(6)組織災害の背景にある人的資源管理、(7)ネット社会における知識マネジメントなど、事例研究する。

■授業計画

- 1 週目 オリエンテーション、講義計画、成績評価と授業方法
 [I. 現代組織の課題]
 2. ブラック企業 ロスト・コンプライアンス
 3. フクシマ原発汚染水：組織災害
 4. JR 事故の組織罰とガバナンス
 5. PL 法：CSR と組織事故
 [II. ICT 利用の知識社会]
 6. クラウド・ソーシング
 7. ICT スマート・アグリ

8. フェイスブック・グーグル
 9. ロボット兵器開発競争
 10. 米中サイバーテロ
 [III. 近未来と環境]
 11. 老朽インフラ・制度劣化
 12. リーマンショックと中国マネー
 13. 近未来エネルギー革命・ラアグ
 14. 地球温暖化と異常気象
 15. 人口爆発・食糧危機・高齢化社会

■授業時間外学習

各授業のたび、指定したテキストを「予習（読書）」し、授業時に提示した課題について「復習（論述）」、次回授業時に提出する。

■成績評価の方法

定期試験（筆記試験）の成績と平常成績で総合評価する。
 定期試験（60%）、小テスト（40%）

■成績評価の基準

学説理解度、事例適用能力、問題解決への提案

■教科書

開講時に指示します。

■参考書

『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』（ミネルヴァ書房）渡辺峻、角野信夫、伊藤健市 編

■備考

予習・復習が望ましい。